

令和3年7月28日
新型コロナウイルス感染症対策専門員会議

広島県の新型コロナウイルス感染症の状況にかかる評価と提言

【感染状況】

- 県全体の直近1週間の新規報告者数（人口10万対）は、7月27日時点で7.5人と警戒基準値（4.0人）を上回り、増加傾向が継続しており、市町別では、福山市（9.6人）、三原市（50.5人）、広島市（6.3人）において、高い水準となっている。
- 感染者の年代別の分布は、30代以下の若年層が6割を超え、中でも10代以下がこれまでの波と比較して占める割合が高く、変異株の感染力が影響している可能性がある。一方で、70代以上の高齢者の割合は低く、ワクチン接種の効果が現れていると考えられる。
- 推定感染経路は、飲食などのほか、職場や家庭での感染が依然として多い。
- 新規報告者数の前週比は、2を上回る状態が継続しており、医療機関でのPCR検査における陽性率の上昇や7月の連休中の県外の感染拡大地域からの流入者の増加を踏まえると、すでに新たな感染拡大が始まったと認識する必要がある。
- デルタ株のスクリーニング検査陽性率は、7月後半で約20%まで増加してきており、今後本県においても急速に置き換わるおそれがある。

【医療提供体制】

- 7月27日時点の療養者数（人口10万対）は、県全体で8.1人、福山市で9.8人、広島市で6.9人と増加傾向を示している。
- 入院病床の使用率は、全体では9.0%と現時点でひっ迫した状況にないが、今後の感染拡大を見据え、早めにフェーズを上げ、宿泊療養施設入所者及び自宅療養者の診療体制構築を着実に進めるなど、準備を万全にしておく必要がある。

【クラスター対策】

- 7月以降、医療施設・介護施設等におけるクラスターの発生が抑えられており、各施設の感染防止対策の徹底とワクチン接種の効果が現れているものと推察される。
- 今後、感染者数が増加した場合には、クラスターが一定数発生するものと考え、保健所等は「医療・福祉クラスター対応班」と連携した施設支援体制を継続していく必要がある。

- また、職場、会食、学校、保育園等を介した感染が継続していることから、クラスター化する前にいち早く幅広く検査を実施し、拡大を抑え込んでいく必要がある。

【ステージ判断について】

- 参考指標である直近1週間の新規報告者数（人口10万対）は、本県の警戒基準値（4.0人）を上回っているが、ステージⅢの水準（15.0人）には至っていないことから、県全体としてはステージⅡの状態にある。
- ただし、前週比、連休中の感染拡大地域からの流入人口、変異株の割合の増加を踏まえると、数日中に県全体の直近1週間の新規報告者数（人口10万対）は10人を超え、ステージⅢの水準に近づくことが見込まれる。

【今後の見通しと必要な対策について】

- 首都圏や関西圏をはじめとする全国の感染状況は、デルタ株等変異株の置き換わりが進んでおり、県内においても今後急速に拡大する恐れがあり、飲食のほか、職場、学校などでの感染防止対策を今一度徹底することが重要である。
- 7月の連休における感染拡大地域との往来は、5月の連休並みに大幅に増加していたことから、拡大の兆しを捉えた今、感染拡大のピークをできるだけ低い水準に抑えるため、機を逸することなく早めに対策を講じる必要がある。
- 集中対策は、感染状況と今後の拡大リスクを考慮し、エリアを絞って行うとともに、直近1週間の新規報告者数（人口10万対）が15人程度になると見込まれる場合には、これまでの対策とその効果等を踏まえ、人流の抑制と接触の削減を基本とした行動制限や施設の使用制限など強い対策とすべきである。
- 直近では10代以下の感染者割合が高く、30～40代の親世代から家庭内へ感染が拡大していることが推察される。家庭への持ち込みを防ぐためにも、親世代をターゲットとして感染防止対策の再徹底やワクチン接種促進の呼びかけを行うことが重要と考える。
- 高齢者の感染者割合は低下している一方で、ワクチン未接種のうち比較的年齢の高い40～60代で基礎疾患を有する者は重症化リスクが高い傾向がある。かかりつけ医や職域の産業医などを通じて、特にこうしたリスクの高い層へ注意喚起を行う取組も必要である。

【ワクチン接種の促進について】

- できるだけ早期に一人でも多くの県民がワクチンを接種することを期待する。
- 本格的に一般接種が始まりつつあることから、県及び市町においては、接種への不安や疑問に寄り添った相談対応のほか、ワクチンの効果や副反応などに関する情報提供を丁寧に行い、特に若年層の接種率向上のための工夫を行うなど、更なる促進に取り組む必要がある。